

Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第18号

2015年 3月31日発行

編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめよう日」

東日本大震災、原発事故、豪雨等により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

前回予告しました香芝高校の「青葉仁会の農業体験に参加して」…長らくお待たせしました！でもまだ、複数の掲載待ち原稿があります…。今回は、定時制高校の仲間から、思いのこもった投稿をいただきました。また、今年度もスタッフ希望者を募集します!!



青葉仁会の農業体験に参加して

香芝高校 ボランティア部

僕たちボランティア部は、一昨年から奈良市柚ノ川(そまのかわ)にある青葉仁(あおはに)会と交流しています。昨年は、八月六日に三人で施設を訪問しました。こちらの施設は、「障害を持つ方々が様々な仕事やここの暮らし、余暇を通じて一人一人豊かな生活を過ごしていくためにサポートする」という理念のもと活動している社会福祉法人です。今回僕たちが体験させていただいたのは、ブルーベリーの収穫のお手伝いです。こちらでは三年ほど前から仕事の一つとしてブルーベリーを栽培しています。二時間ほど収穫作業をしましたが、夏ということもありとても暑く、手が止まってしまうことも時々ありました。その時にその農園で働いている障害者の方と野球の話などをして盛り上がりました。また、その作業中に、障害を持っていたりするのは、青葉仁会のスタッフの方には、障害を持っていても可能性はたくさんあるとおっしゃっていました。事実、この施設では農業だけでなく、陶芸や絵画など、多種多様な仕事をされている方がいます。特に



絵では、スイスや東京の展示会に出展している方もおられます。

また、収穫のお手伝いの前に、施設の案内もしてもらいました。ここでは、部屋は個室で、洗濯も洗える人は自分で洗っていると聞きました。案内をしていただく中で、スタッフの方は、このようなことを話してくださいました。「戦後に国の政策で作られた施設では、障害者は人との関わりが苦手で、人と違う価値観を持ち、健常者とは関わりづらいついて考えられていたため、健常者が障害者に対して強い口調でしゃべりすることもあった。さらにその当時は、お風呂は三日に一回、部屋も二人部屋以上が当たり前であった。こういうことはおかしくないか。」と。この話を聞いて今はどうなっているのか調べてみると少しずつ改善されているようです。まだまだな所もあります。僕は改めて、世の中は障害者にとって優しくはないのかもしれないと思えました。障害者も一人の人間なのです。スタッフの方や家族の人たちが頑張っていたとしても、周囲の協力がなければ、障害を持つ方々が本当の意味で豊かな人生を送れたとは言えないし、さらに、サポートをしている人たちも幸せに生きていけないと感じました。

ちゃんと考えています。そして、障害者と健常者が一緒に暮らしていく中で、お互いの「壁」がなくなると、障害者を監視するのではなく、一人の人として、接して見守って過ごしているように感じました。だから僕自身も居心地よく感じました。障害を持つ方々全員と自然に接することは難しいのかもしれないけれども、少しでも健常者と障害者の「壁」がなくなればいいと思います。

(香芝高校 常盤 健太)



高解研 研修・交流会 参加体験記

第二回の高解研 研修・交流会
を終えて

今年度第二回の高解研研修・交流会は、二月一日(日)、桜井市中央公民館で行われました。今回は東日本大震災の被災地を舞台にしたファンタジー映画『ふしぎな石』を視聴し、

東北の郷土料理ひつつみ汁を食べた後、各校の感想や人権についての活動などを述べる、という流れでした。今回も有意義なときを過ごすことができました!

映画は、まず震災のときにニュースや新聞で見た津波の映像から始まりました。人々の叫び声が聞こえ、津波という大きな怪物はあつという間にあらゆる人や物を飲み込んでいってしまった。私は、もし自分がそんな状況になったらどうなるのかという恐怖感と、この状況に遭った方々は精神的に辛いのではないかとという心配、そしてその後の状況にはどんな変化があったのかという好奇心が入り混じった複雑な心情で映画に見入っていました。

舞台は小学校に移り、その小学校に通っていた四人の小学生が集まってきました。校舎の中はほぼ震災直前の様子が残っており、まるでそこだけ時間が止まっているようでした。四人はそれぞれの思いを話しつつ校舎を巡り、校庭に出ました。そこでふしぎな暗号文が書かれた革布を見つめます。その暗号文は「五つの石のかげらを集めるように」と言っているようでした。

そこから四人の石探しが始まります。石を探る際に出会う大人たちからいろいろな話を聞いたり、震災に関わるいろいろな物を目にした。そして五つの石のかげらを合わせたら何かが起こる……!

映画『ふしぎな石』は、「地球のステージ」代表の桑山紀彦さんが監督

(二面に続く)

前回、「いじめの悪循環」についてのコラムを書かせていただきました。いじめから逃げてばかりいてはダメ。周りの協力によって、いじめの悪循環から脱出できるという内容でした。

今回は、「生きているって素晴らしい」と考えるところの私の持論をまとめます。

今年、戦後70年の年を迎えます。私は小学校の修学旅行で広島を訪れ、そこで戦争体験者の話を聞く機会がありました。その後、平和記念資料館の展示を見たとき、戦争を体験された方の話と重なり、とても悲惨なことが過去に日本でもあったのだと初めて知りました。今世界に目を向けると、テロや反乱によって、たくさんの方が尊い命を落とされています。そのようなニュースを見るたびに心が傷ついてしまいます。昨年の暮れ、私と同世代のマララさんがノーベル平和賞を受賞されました。彼女が「少女が教育を受ける権利」を主張し、活動したことが認められたのです。しかし、マララさんはその活動を始めた際、彼女の主張を認めない人々によって命を狙われることにもなりました。これは大きな意味で「いじめ」と同じです。もし彼女が、彼女の意見に反対する人々の迫害を恐れ、主張を覆してしまったら、少女たちに教育を受ける権利は保障されな

いまだったでしょう。

いじめは戦争をすることと同じように、相手の立場、心、体を傷つけるものです。それを放っておくと、いつまでも傷が治らず、命にも関わってしまいます。これは大きな問題です。だからこそ私たちは、いじめについて考えなければなりません。

戦争を体験し、生き延びた人たちは「生かされた命」という言葉をよく使われました。それは共に活動した仲間や友人が目の前で命を落とす瞬間を目の当たりにして、発せられた心の底からの言葉だったのでしょう。だからこそ生存者は、『生きている意味』を真剣に考えたのです。いじめられる人、いじめる人共々『生きている意味』を真剣に考えてみれば、『生きているって、素晴らしい』と感じられるのではないのでしょうか。

私は、いじめは世界で起こっているテロや反乱と同質のものではないかと思ひ、今回のコラムを書いてみました。皆さんも一度、いじめと戦争の共通点を考えてみてください。

今回はここまでです。御清覧有り難う御座います。

その後、お昼時となり、皆で協力してひつつみ汁を作りました。小麦粉で作った生地をちぎってはのぼしちぎってはのぼし：野菜や鶏肉と煮込んでできあがり！やっぱ寒い冬には温かいものが一番いい。体の芯から温まり、お腹いっぱいになります。それだけでなく、私はこんなことも感じました。「ひつつみ汁」ひつつみ汁なのでは？と。人と人との縁を結び、笑顔が連鎖している楽しい時間を過ごせたからです！

その後はゆっくりしつつ、映画の感想を述べたり、各校の活動を紹介したり、と楽しく交流をしました。今回も新たな発見があったり、なんと



されたもので、出演された方は皆、東日本大震災で被災された方だそうです。それだけに映画の中のメッセージには真に迫ったものを感じました。また、私は被災して辛い思いをしているのに、笑顔でいられて会話もできるなんてすごいと思います。私とその状況に遭ったら、おそらく私から笑顔が消え、外に出ることでさえ嫌になると思います。辛いのを忘れることができたらいのにと、しよっちゆうSNSなどに書き込み続けてしまうくらい病んでしまいそうで、本気で怖いのです。それなのに外に出て会話ができるのは、普通の状況であればごく当たり前の風景ですが、あんなことがあった後となると、とても勇気がいることだと感じました。

(一面から続く)

中学時代の友達と久々に会えたりと、嬉しいことが満載でした。今回も高解研に参加してよかったです。来年度も欠かさず参加しよう！と思いました！

(奈良大学附属高校 吉村 拓紀)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。当日は七校から二十名の参加がありました。



奈良県高等学校 定時制・通信制生徒 生活体験発表会

『定時制高校』—この言葉を聞いてあなたはどんな風景を想像しますか。私は三十四才の時に奈良朱雀高校定時制に入学しました。そんな定時制には様々な環境から来た生徒たちが通っています。そして一人一人がそれぞれ思いを持っています。

定時制・通信制(※には毎春秋に「奈良県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会」というものがあり、定時制・通信制に通う生徒が『過去や現在』の体験、そこから学んだことを発表するものです。各学校には十六才から七十才まで幅広い生徒がおり、各学校の代表が集まり発表しあうこととお互いを刺激しあひ励ましています。今年、大和中央高校で開催され、奈良朱雀・山辺高校山添分校・大和中央(定・通・五

条・五條高校賀名生(あのを)分校・畝傍・天理(二部)の八校から十一名が熱い思いをそれぞれ発表しました。

私たちは、定通制高校が存在したから自分の居場所を見つけることができました。定通制高校がある限り誰もがチャレンジできるのです。自分がスタートしたいと思ったらスタートできる。そんな場所がここである事を少しでもわかってもらいたいなど思っています。私は三十八歳で無事卒業できました。皆さんの「定時制高校」へのイメージが少しでも変わってくれたらうれしいです。(奈良朱雀高校定時制課程 吉田 一成)

※通信制課程とは、全日制や定時制とは別に、毎日学校へ通えない人が高校教育を受けられるようにと設けられた課程で、学習は、スクーリング(学校における面接指導)とレポート作成が中心になっています。

◆今回の誌面は、二〇一四年度の編集スタッフ(奈良情報商業高校・香芝高校・奈良大学附属高校の三校六名)が作りしました。

高校生の人権広報誌

“Freedom” 第18号 (2015年3月31日発行) 発行 奈良県高等学校人権教育研究会 〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県人権センター内 TEL 0742 (62) 5555 FAX 0742 (62) 5568 E-mail kodokyo@kcn.ne.jp HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。 ※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください) ※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。